

第 52 回 日本インドネシア学会研究大会 発表要旨集

Kumpulan Abstrak Makalah-Makalah Simposium Ke-52

Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang

第一日 : 2021 年 11 月 20 日 (土曜日) / Hari Pertama : Sabtu, 20, November, 2021

自由発表 01

インドネシア語辞書の派生語配列について

(Bagaimanakah urutan sublema dengan afiks dalam kamus Bahasa Indonesia?)

佐々木重次 (SASAKI Shigetsugu)

KBBI: Kamus Besar Bahasa Indonesia (Badan Bahasa), KKM: 最新インドネシア語小辞典 (Grup sanggar), PROG: プログレッシブ・インドネシア語辞典 (小学館) の辞書を取り上げて, Lema の下に Sublema として登場する派生語がどういう配列で扱われているかを見直して整理してみた。

どの派生語をどこで扱うか --- 辞書はそれぞれ独自の配列を見せる。ここで ABC 順を採用するのは KKM と PROG だが, 同じ ABC 順でも, 派生語ベースか否かの相違を見せる。

字下げ --- tuju > setuju > persetujuan のような派生語のとき二字下げを使ったらすっきりゆくの
に, どの辞書も (KKM 以外) 一字下げに固執する。二字三字下げ導入を提案したい。

自由発表 02

自動翻訳の実例から見る接続詞 bahwa

(Konjungsi “bahwa” yang dilihat dari hasil terjemahan otomatis)

安田和彦 (YASUDA Kazuhiko)

[京都産業大学 (Universitas Kyoto Sangyo)]

近年、Google 翻訳®等の自動翻訳は急速な進歩を遂げ、インドネシア語学習・教育・研究に与える影響も様々な意味で大きくなってきている。

本発表では、インドネシア語から日本語への自動翻訳の実例から、節を導く接続詞 *bahwa* の用例を取り上げ、考察していく。

bahwa は、他動詞の目的語等の名詞節、または、その前の名詞を修飾する形容詞節を導くという複数の機能を担い、それが省略される場合もあり、談話を参照して、その機能を特定し、文中の述語動詞、または被修飾名詞との相関関係において意味を決めて訳さなければならない語彙である。

頻繁に用いられる用法と頻度が低い用法、それが明示されている場合と省略されている場合において、翻訳結果に違いが出てくるのではないかという仮説に基づき、自動翻訳が *bahwa* に導かれる節をどのように翻訳しているのかを検証し、そこから得られる知見を、本邦のインドネシア語文法研究において、記述文法のさらなる充実、規範文法のさらなる明確化に役立てていきたいと考える。

自由発表 03

Dokumentasi Bahasa Indonesia berdasarkan Korpus dan Tata Bahasa Komputasional

David Moeljadi

[神田外語大学 (Universitas Bahasa Asing Kanda)]

Dokumentasi bahasa yang berisi jenis-jenis kata dan aturan-aturan tata bahasa beserta frekuensinya dapat dilakukan dengan menggunakan data korpus yang telah dianotasi. Anotasi data korpus dapat dilakukan secara manual, otomatis, atau semi-otomatis.

Penelitian ini menggunakan tata bahasa komputasional bahasa Indonesia (Indonesian Resource Grammar/INDRA; Moeljadi, Bond, and Song 2015) untuk menganalisis struktur kalimat bahasa Indonesia dan membantu proses anotasi korpus secara semi-otomatis. Pangkalan Data Tipe Linguistik (Linguistic Type Database/LTDB; Hashimoto, Bond, and Flickinger 2007) digunakan untuk memproses informasi yang ada dalam tata bahasa komputasional dan korpus sehingga pengguna dapat melihat dokumentasi bahasa secara visual.

自由発表 04

インドネシア語における前置詞の“di”でマークされている時間表現について

(Keterangan Waktu yang Ditandai dengan Preposisi "di" dalam Bahasa Indonesia)

Tiwuk Ikhtiari

[京都産業大学 (Universitas Kyoto Sangyo)]

インドネシア語には、時間を表現するために前置詞“di”ではなく、“pada”を使用するべきとよく言われているが、実際に、その逆、“pada”ではなく、“di”を使用する文章が新聞記事などでしばしば見かけてきた。例えば、“Sejumlah orang punya kebiasaan menyeruput secangkir kopi di pagi hari.” という文章における時間表現“di pagi hari”の前置詞“di”の使用することである。“di”といった前置詞は、基本的には、場所や空間の物理的な領域を叙述する表現である。

本発表では、まず、インドネシア語のルールによる場所・空間の表現および時間の表現において前置詞“pada”および“di”をどのように使用するのかを考察し、そして、上記の例文のように、時間を表現するために、空間を表現するための“di”を使用している現象が現れてきたことについて、誤用かどうか別にして、場所・空間の表現が時間の概念領域に比喩的に拡張されているという、空間から時間への転義で、“di”の使用は容認できるということを試みたいと思う。

自由発表 05

ジャカルタの若年層におけるインドネシア語変種の使い分け意識

(Kesadaran Pemuda Jakarta Terhadap Penggunaan Ragam Bahasa Indonesia)

藤崎拓海 (FUJISAKI Takumi)

[大阪大学大学院言語文化研究科(Univesitas Osaka)]

インドネシア語には公的な領域で用いられる標準インドネシア語と、私的な領域で用いられる口語インドネシア語の2言語変種が存在する。その一方で、2つの変種を混在させて用いる場合（中間変種）も実際の会話ではよく見られる。本発表では、ジャカルタとその周辺地域出身の若年層を主な対象としてアンケート調査を実施し、話す相手との年齢差によって「標準インドネシア語」「口語インドネシア語」「中間変種」のどの変種が用いられるのかを分析した。その結果、同じ領域でも年上の相手と話す場合は口語インドネシア語の使用率が非常に低く、中間変種の使用率が高いことがわかった。さらに、年上の相手と話す際の標準インドネシア語使用率は、特に私的な領域において、男性の方が女性よりも高くなる傾向が認められた。また、回答者のコメントから、人称代名詞や談話辞が、標準インドネシア語らしさあるいは口語インドネシア語らしさを印象付ける働きを持っていることが示唆された。

自由発表 06

Transformasi Sastra Lisan Indonesia Pada Era Digital

Dr. Novi Siti Kussuji Indrastuti, M.Hum.

[Fakultas Ilmu Budaya, Universitas Gadjah Mada]

Kajian ini bertujuan menunjukkan berbagai bentuk transformasi sastra lisan Indonesia pada era digital.. Sastra lisan mengandung nilai kearifan lokal, ajaran budi pekerti, pendidikan moral, dan hiburan bagi masyarakat penikmatnya. Saat ini sastra lisan di Indonesia tetap memiliki peran dan fungsi penting dalam membangun karakter bangsa, terutama generasi muda. Oleh karena itu, diperlukan inovasi dengan cara mentransformasikan sastra lisan dalam bentuk audio-visual melalui internet sehingga sastra lisan tersebut menjadi lebih menarik dan diterima generasi Milenial pada era digital. Transformasi sastra lisan melalui media daring juga merupakan upaya pelestarian sastra lisan. Beberapa bentuk transformasi sastra lisan Indonesia, antara lain webtoon atau webcomics, game animasi daring, video You Tube, film animasi, teks daring dan buku digital (e-book), aplikasi, dan sebagainya.

Kata kunci: transformasi, sastra lisan, era digital

自由発表 07

Sebuah Tinjauan atas Kartun Editorial dan Pandemi Covid-19

(風刺漫画と新型コロナウイルスの世界的なパンデミックについての一分析)

Edy Priyono

[京都産業大学 (Universitas Kyoto Sangyo)]

風刺漫画は、当世の出来事について象徴的に、そして皮肉的に風刺するするひとコマ漫画である。この風刺漫画を分析することで、社会や時代の状況が見えてくる。2019 年末からの新型コロナウイルスの世界的な流行は世界共通のテーマとなった。そこで、本発表では、それに関する風刺漫画を複数の国や地域から収集し、特徴や共通点の分析を試みる。具体的には、インドネシア、フィリピン、シンガポール、日本、台湾、という4カ国と1地域の風刺漫画を扱う。

1年以上にわたって収集した新型コロナウイルスに関する風刺漫画は鋭い社会風刺を含んでいる。4か国と1地域の風刺漫画からは、新型コロナウイルスの流行がいかにも人々に衝撃を与え、社会の変化をもたらしたかを見て取ることができる。

自由発表 08

Polyglot, Kosmopolitanisme, dan Pembentukan Bahasa Sastra Indonesia dalam Novel Jendela-

Jendela Karya Fira Basuki

Pujiharto

[Prodi Bahasa dan Sastra Indonesia, Fakultas Ilmu Budaya, Universitas Gadjah Mada]

Salah satu novel Indonesia yang menggambarkan kehidupan patriot kosmopolitan adalah Jendela-Jendela karya Fira Basuki (2001). Novel ini menggambarkan cara-cara berinteraksi antarwarga bangsa dari berbagai negara lewat hubungan pertemanan, percintaan, kerja, dan berbagai hubungan lain di antara para tokohnya. Lewat hubungan-hubungan yang tergambar di dalamnya tampak karakteristik yang melekat pada mereka, yaitu memiliki kemampuan berbicara dalam beberapa bahasa (polyglot) dan memiliki sikap multikultural. Menjadi polyglot dan bersikap multikultural adalah tuntutan untuk bisa menjalin komunikasi di antara mereka yang berasal dari berbagai negara yang memiliki bahasa dan budaya yang berbeda antara satu dengan lainnya. Kedua karakteristik tersebut tampaknya merupakan konsekuensi bagi mereka dalam mewujudkan gagasan kosmopolitanisme bahwa semua umat manusia termasuk dalam satu komunitas yang melampaui bentuk kesetiaan lainnya, seperti negara-bangsa atau sumber identitas sosiokultural lainnya. Sejalan dengan penggambaran di atas, tergambar pula berlangsungnya pembentukan bahasa sastra Indonesia dalam melakukan penyempurnaan dirinya.

自由発表 09

Perubahan Konstruksi Pasif Bahasa Jawa

Atin Fitriana [Universitas Indonesia],

Dwi Puspitorini [Universitas Osaka]

Sifat intransitif pada konstruksi pasif tidak bersifat universal. Bahasa-bahasa Austronesia memiliki konstruksi pasif yang bersifat transitif karena memiliki dua argumen inti yang wajib hadir, yaitu agen dan pasien. Bahasa Indonesia dan bahasa Jawa termasuk bahasa yang memiliki konstruksi pasif yang bersifat intransitif dan transitif. Pada bahasa Jawa, afiks -in- merupakan pemarkah formal pasif pada konstruksi pasif intransitif. Konstruksi pasif dengan pemarkah afiks -in- tidak mengalami perubahan dari bahasa Jawa Kuno ke bahasa Jawa Modern pada teks sastra. Akan tetapi, argumen agen berupa pronomina persona pertama yang melekat pada verba pasif -in- tidak ditemukan pada teks berbahasa Jawa saat ini. Oleh karena itu, penelitian ini bertujuan untuk mengidentifikasi perubahan konstruksi pasif dengan agen berupa pronomina persona pertama bahasa Jawa dari abad 9 sampai abad 21.

自由発表 10

ジャワ語の自称、対称、呼びかけに使われる表現

(Bentuk Ungkapan dan Kata untuk Sebutan Diri dan Sapaan dalam Bahasa Jawa)

三宅良美(MIYAKE Yoshimi) [秋田大学(Universitas Akita),

Sri Budi Lestari [立命館アジア太平洋大学(Ritsumeikan Asia Pacific University)]

本発表は、ジャワ語の自称、対称、呼びかけ語として使われる表現や語彙について、ジャワ語の映画や母語話者の作例・聞き取りに基づき論じる。

呼びかけの表現と語彙はインドネシア語と同様、会話なの中でよく使われる。親族名称、個人名、敬称など様々な形式がある。本発表はコンテキスト内のヴァリエーションと変異要因を調べてその成果を報告する。既存の研究考察と、データに基づく量的研究をしたのち、ディスコースに従ってどのように呼びかけ語が変わっていくかも考える。

階級言語であるジャワ語において、口語体で使われる呼びかけ語、対称、自称どのように使われるのか。ジャワ語の人称代名詞には普通体 ngoko と敬体 krama によって区別されている。実際の会話の中で、対称（話し相手を指す）には「2人称代名詞」と「敬称+個人名」や「親族名称+個人名」等どのように使い分けられているのかを分析する。どのように教育されるのか。インドネシア語とのヴァリエーションはいかなるものか。親族関係、年齢、階級、職業、宗教、心理的距離の要因との関係について、ディスコース研究を通して考える。

自由発表 11

なぜ踊り続けるのか：文化の民主化によるジャワ王宮舞踊の習得過程の変化

(Untuk apakah mereka belajar menari terus? : Perubahan proses pembelajaran tari klasik

Yogyakarta setelah demokratisasi)

岡部政美(OKABE Masami)

[アジア太平洋無形文化遺産研究センター (International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region)]

2000年代以降、ジョクジャカルタ王宮舞踊の踊り手は、歴史上はじめて、自由に自らの意思を反映した舞踊活動を行えるようになった。なぜならジョクジャカルタ王宮舞踊は常に政治の中心に位置し、支配者の意思のもとで営まれてきたが、地方自治への移行に伴う文化の民主化により国家の制約を受けなくなったからだ。ならば現在、踊り手は王宮舞踊をどのように生活に位置づけ、なぜ踊り続けているのか。2001年から2009年にかけて、独自の運営方針を掲げた4つの舞踊団体・教室が生まれ人気を得ている。舞踊の習得過程に注目すれば4団体・教室とも、習得期間の制約がないこと、昇級試験、セメスター制を取り入れない点で、伝統のある舞踊団体・教室、国立芸術教育機関と際立った違いを持つ。本発表ではインタビュー成果を中心に用いて植民地時代、スカルノ・スハルト大統領時代、民主化以後の舞踊の習得過程の変化から、現代社会において踊り続ける意味を探ることを考察する。

自由発表 12

大地の豊穡性の象徴としてのバティック

(Batik sebagai Simbol Kesuburan Bumi)

川崎尚美 (KAWASAKI Naomi) [Universitas Sebelas Maret]

Andrik Purwasito[Universitas Sebelas Maret], Titits Srimuda Pitana[Universitas Sebelas Maret],

I Wayan Sukarma [Univesitas Hindu Indonesia]

インドネシアの豊かな伝統服飾文化の代表であるバティックは、その特徴ある技術、多様な文様の美しさで世界に認められている。その中でも、稲作文化に育まれた価値体系を基盤とし、ジャワの伝統的な王宮（ソロ並びにジョクジャカルタ）を中心として発展した雅（halus）の文化を色濃く残す中部ジャワ地方のバティックは、豊かな象徴性をその特徴としている。その象徴性の中には、父なる大空と母なる大地の間に生きるものとしての人間の姿、そして豊かな恵みをもたらしてくれる自然に対する感謝の思いを見ることが出来る。本発表は、バティックを単なる美しい服飾文化の伝統の一つとして扱うことに留まらず、バティックのなかに象徴的に描きこまれたジャワの人々の世界観、自然観、人間観を読み解き、それによってジャワの人々が自らを取り巻く神羅万象（環境）とどのようなつながりを築き上げようとしてきたかを明らかにすることが目的である。

自由発表 13

少数派として生きるバリムスリムのアイデンティティ—ワリピトゥ聖人譚をめぐるナラティブ分析から

(The self-awareness of Balinese Muslim: Narrative analysis of the murdered Balinese Saints “Wali Pitu”)

東海林恵子(SHOJI Keiko) 東海大学[Universitas Tokai]

ヒンドゥーが多数を占めるバリにおいて、バリ人でありながらもジャワなどにルーツをもち、イスラム教を信仰する「バリムスリム」と呼ばれる人びとが、どのようにバリヒンドゥー社会を捉え、イスラムの独自性とアイデンティティを保守しているのかということ考察していく。それらを議論するうえでバリイスラム七聖人、ワリピトゥ Wali Pitu の聖人譚を俎上に載せ分析を行う。ワリピトゥの聖人譚は、2001年にイスラム指導者、アリフィン アセツガフ Arifin Aseggaf の著作による初版が出版された。その後、バリムスリム社会に広まっているワリピトゥの聖人譚の変形（異形）版ともいえる物語は、現在のバリ社会の変化にあわせてバリムスリムの視点で様々に複数、描き出され再創出されている。その聖人譚をバリムスリムたちが創造した「ナラティブ」ととらえ、ナラティブ分析の方法によって現代のバリムスリムのアイデンティティに迫る。

第二日: 2021 年 11 月 21 日 (日曜日) / Hari Kedua : Minggu, 21, November, 2021

共同発表(Presentasi Bersama)

インドネシア語応用教材の開発における課題

(Permasalahan dalam Pengembangan Bahan Pengajaran bahasa Indonesia Terapan)

森山幹弘(MORIYAMA Mikihiro) [南山大学(Universitas Nanzan)]

降幡正志(FURIHATA Masashi) [東京外国語大学 (Universitas Kajian Asing Tokyo)],

原真由子 (HARA Mayuko) [大阪大学 (Universitas Osaka)],

佐近優太 (SAKON Yuta) [東京外国語大学 (Universitas Kajian Asing Tokyo)]

本学会において企画者の3名は、これまでにインドネシア語教育および教材開発に関する2回のテーマ発表(2011年、2014年)を企画した。1回目のテーマ発表では、学会員と既存の教育資源を最大限に有効活用し、具体的な教材開発について考えていくことが日本のインドネシア語教育にとって急務であることを課題として共有した。ついで2回目のテーマ発表では、会話教材の開発を念頭において、日本におけるインドネシア語の会話の授業のあるべき方向性について議論し、各大学等が抱えている課題を共有した。一方、企画者の3名は2011年からインドネシア語の教材開発について共同研究を行っており、その研究成果として国内の教育機関でインドネシア語を教える際に利用することができる共通の基本文法についてまとめ、2017年3月に試行版として31項目からなる『インドネシア語基本文法』(以下『基本文法』)を日本インドネシア学会の会員に公開した。その成果の一部については本学会で数回の発表を行ってきている。

今回のテーマ発表の企画は、上記の10年間にわたる教材研究の成果を踏まえ、インドネシア語の応用教材の開発の実践と課題について議論することを目的としている。具体的には、上記の『基本文法』の記述において取り上げた文法項目及び例として取り上げた語が、実際の文の中でどのように使われているかについて研究する中で浮かび上がってきた問題や課題、また『基本文法』で例として採用した例文が果たして適切であったのか、ある語が文の中でどの語とどのように共起するのかなどについて、応用教材の開発を目指し具体的な作業を行う中で見えてきた問題点を議論することを提案する。その開発のためのコーパス・データやコンコーダンス・ソフトの活用の実践から見えてきた問題点などを具体的に示しながら報告する一方で、より広い視野から応用教材の課題について本学会で議論することにより、日本のインドネシア語教育における応用教材の開発に資することを目指す。

(企画者: 森山幹弘、原真由子、降幡正志)

自由発表 14

Citra Perempuan dalam Majalah Propaganda Jepang *DJAWA BAROE*

Alifia Masitha Dewi, S.S, M.Phil

[奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科(Nara Women's University)]

Presentasi ini menganalisis citra perempuan dalam salah satu majalah yang diterbitkan pada masa pendudukan Jepang di Indonesia. Selama 3,5 tahun pendudukan Jepang di Indonesia, pemerintah militer Jepang menggunakan berbagai macam media untuk menyebarkan ideologi Perang Asia Timur Raya, salah satunya adalah media cetak. Djawa Baroe adalah salah satu media propaganda pemerintah Jepang untuk pembaca Indonesia dan pembaca Jepang yang ada di Indonesia. Hal yang menarik adalah di dalam majalah ini, banyak sekali pencitraan perempuan Indonesia yang sengaja dimunculkan. Perempuan-perempuan tersebut digambarkan sebagai dua sisi mata uang, yakni sebagai penguat tradisi lokal dan sebagai sosok yang terhegemoni oleh ideologi Jepang. Oleh karena itu, di dalam majalah ini dapat ditemukan citra ganda perempuan Indonesia yang dipandang oleh pemerintah militer Jepang pada saat itu sebagai sosok perempuan Indonesia yang ideal.

Kata kunci: *Djawa Baroe*, majalah, citra perempuan, propaganda, masa pendudukan Jepang

自由発表 15

Propaganda dalam Drama Indonesia di Masa Pendudukan Jepang

Dr. Cahyaningrum Dewojati, M.Hum.

[Fakultas Ilmu Budaya Universitas Gadjah Mada]

Presentasi ini mengkaji muatan propaganda yang terdapat di dalam teks drama pada masa pendudukan Jepang di Indonesia. Sendenbu yang dibentuk pada Agustus 1942 berfungsi sebagai organisasi yang mengurus permasalahan mengenai propaganda Jepang di Indonesia.. Pembentukan organisasi ini tidak dapat dilepaskan dari campur tangan pihak militer dan selalu diisi oleh militer. Pengurusan, pengawasan, dan pengendalian media propaganda pihak Jepang dalam Sendenbu dilakukan oleh Seksi Propaganda. Salah satu bentuk propaganda yang dihasilkan adalah seni sandiwara ada drama. Pemilihan tersebut didasarkan pada asumsi bahwa drama dapat mengobarkan semangat masyarakat saat dipentaskan. Teks drama yang akan dibahas antara lain *Djinak-Djinak* Merpati Karya Armijn Pane,

Kami, Perempoean karya Asia Poetera, dan Pandu Partiwu karya Merayu Sukma. Dalam teks drama yang ditulis masa pendudukan Jepang (1942—1945) tersebut dapat ditemukan gambaran kondisi sosial-politik masyarakat Indonesia saat itu dan isu tentang nasionalisme Asia yang berkompetisi ideologi kolonialisme Barat.

Kata kunci: drama, propaganda, masa pendudukan Jepang, nasionalisme Asia